

堀越 道男 議員

市内の子どもの数は、6歳児484名、5歳児481名、4歳児442名、3歳児444名、2歳児409名、1歳児375名。豊岡地域は、6歳児39名、5歳児30名、4歳児31名、3歳児28名、2歳児42名、1歳児34名と一定数いる。5月定例会議時点では、第一保育所閉所は決まっておらず、保育所などの公共施設を廃止する場合、地方自

議員

昨年実施した耐震診断の結果、第一、第四、第五保育所で耐震性能が不足していることを受け、市全体の公立保育所の適正規模、適正配置の見直しを行い、最終的な公立保育所再編計画を策定した。

保健福祉部長

公立保育所再編計画について、6月の子ども・子育て会議において突如、第一保育所の令和5年閉所が示された。どういう経緯で決まったのか。

議員



答弁

保育所を閉所することは子育て支援と逆行していないか

子どもの安全を最優先に考え、施設整備を進めていく方針

治法244条で議員の3分の2の同意を得る必要がある。簡単に決められることではない。7月に行った説明会の参加人数は、

保健福祉部長

7月7日、第2保育所保護者28世帯中11世帯、14日第一保育所保護者40世帯中10世帯、20自治区長中4名であった。

議員

この数字を見ると、計画を進める状況ではない。市長はかつて、子育て茨城一位を目指すと言っていたが、公立保育所再編計画は、その延長線上にあるのか。

市長

今回の決断は、断腸の思いだ。案ではあるが、再編計画はその延長線上にあると考える。時代の変化に応じた行政経営をしていかなければならない。

議員

市長の断腸の思いは受け取れない。保育所をなくしてしまつたら、子育て世代がいなくなる。豊岡の危機であり、絶対に容認できない。

小林 剛 議員

幼稚園は緊急避難させて、なぜ保育所は緊急避難させないのか。何年後かに統廃合するといふ問題ではなく、防災先進都市を目指している中、今危険な現状をどうするのか。

議員

第一・第二・第四保育所は耐震性能が不足しており、その結果を踏まえ最善策を模索したが、園庭の確保や給食が提供できる代替施設の確保が困難であったため、今後、公立保育所再編計画に沿って整備を進めていく。

保健福祉部長

議員

耐震診断に基づく保育所・幼稚園の運用計画について問う。

議員



答弁

耐震不足の公共施設に対する市の考えは

市民との対話をとおして方向性を決定していく

スピード感をもって再編計画を実施し、危険性のある期間を少なくしたいと考えている。

議員

指定文化財の耐震状況と今後の運用計画について問う。

産業振興部長

危険性排除の解決に至っていない現状を踏まえ、今後、市長を交え、市民懇談会を開催し、そのご意見等をもとに、議員と協議の上、方向性や危険性の排除・施策を検討していく。

議員

指定避難所や避難場所の標識に、世界共通の図記号をなぜ使わないのか。

市長公室長

今後は事例を参考にしながら、計画的な改修を検討する。

議員

防災先進都市を目指す市長に今更言うまでもないが、どんな事業よりも人命を最優先すべきである。想定内の危険は、一日も早く排除するようお願いする。